

第七十五回帝國議會 衆議院 船員保險特別會計法案外四件委員會會議錄(速記)第十回

會議

昭和十五年三月六日(水曜日)午前十時三十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 中野 治介君

理事中野 寅吉君

松尾 三藏君

栗山 博君

小野 寅吉君

濱地 文平君

中村 高一君

小山 亮君

三月五日委員村上紋四郎君、前川正一君及岡崎憲君辭任ニ付其ノ補關トシテ栗山博君、中村高一君及井上良次君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

拓務大臣 小磯 國昭君

出席政府委員左ノ如シ

大藏參與官 松田 正一君

大藏省理財局長 相田 岩夫君

大藏書記官 前田 克己君

拓務政務次官 松岡 俊三君

拓務省管理局長 副島 勝君

拓務省殖産局長 植場 鐵三君

拓務省拓務局長 安井誠一郎君

拓務書記官 森重 千夫君

樺太廳長官 棟居 俊一君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

樺太鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債

發行ニ關スル法律案(政府提出)

樺太地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)

○中野委員長 是ヨリ開會致シマス——通告順ニ依リマシテ沖島君

○沖島委員 樺太ニ於ケル封鎖炭田ノ開發ニ關シマシテ、私ハ昨年ノ第七十四議會ニ於テ法律第二十三號改正法律案審議ノ際、或ハ其ノ他ノ委員會ノ機會ニ於キマシテ、現下ノ頗ル緊迫セル燃料國策ニ順應スベク迅速ニ是ガ開發計畫ヲ樹立スベキデアルト云フコトヲ主張シ、此ノ事變下ニ於テ一塊ノ石炭デモ多ク内地ノ產業界ニ送り出スコトガ、樺太ニ課セラレタル最モ大ナル使命デアルト云フコトヲ力説致シマシテ、特ニ商工大臣デアリ且ツ拓務大臣デアリマシタ所ノ八田氏ノ御出席ヲ求メマシテ、其ノ御所見ヲ質シタルデゴザイマス、然ルニ八田拓相ハ私ノ意見ニ同感ノ意ヲ表サレマシテ、是ガ實行ヲ期スル旨ヲ御言明ニナリマシタ、御承知ノ如ク其ノ後石炭ノ缺乏ハ益々深刻トナリマシテ、實ニ石炭ノ缺乏ノ爲ニ事變下ノ我が產業界ハ全面的ニ一大危機ニ陥ツタノデアリマス、此ノ事ハ最近ニ於ケル我が國情ノ上ニ餘リニ深刻顯著ナル事實デアリマスカラ、是ハ是以上私ヨリ説明スル必要ハナナイト存ジマス、ソコデ私が茲ニ御尋ヲ致シタイト存ジマスルコトハ、拓務省ニ於カレマシテハ樺太ノ封鎖炭田ノ開發ニ關シテ相當ノ御計畫ガオアリニナルコトト信ズルノデアリマスガ、其ノ計畫ノ内容ニ付テ御發表ヲ願ヒタイノデアリマス

○松岡政府委員 沖島君ノ只今ノ御質問ニ御答致シマスガ、目下折角各廳關係方面ト交渉中デアリマシテ、只今計畫ノ内容ヲ御示申上グルコトノ出來ナイノヲ洵ニ残念ト致シマス、只今折角進行中デアリマス

○沖島委員 昨年ノ議會デ既ニ吾々ハ今日アルヲ慮ツテ、特ニ大臣ノ言明マデ求メタ、少クトモ此ノ議會ニハ具體的ナ何カノ發表ガアルグラウト期待シテ居ツタ、然ルニ今折角各方面ト交渉中ダナドト云フコトハ、餘リニ急迫シタ現下ノ燃料事情ニ對シテ悠長過ギル、拓務省ハ昨年カラ大臣ガ二回モ更迭ヲサレマシテ、今ノ大臣ハマダ新任勿々デアリマスルケレドモ、拓務省ノ事務當局ト云フモノハ異動シテナイ管デス、サウシテ一面石炭ノ問題ニ付テハ御承知ノ通り殆ド最近ノ商工省ハ石炭問題ニ没頭シテ居ル、閣議モ中心問題ハ殆ド石炭ト云フ程ニ取扱ツテ居ル、ソレヲ今拓務省デハ各方面ト折角交渉シテ居ルナドト云フヤウナ悠長ナ態度ハ、實際此ノ時局ニ對スル認識不足デ、餘リニ緊張ヲ缺イタコトデアツテ、私ハ非常ニ遺憾ニ思フ、ソレデ各方面ト交渉中ト云フノデアリマスルガ、大體ドウ云フ腹案、目標デ、今ドノ程度ノ交渉ガ進ンデ居ルカ、是ハ御發表ニナツテモ宜シクハナイカト思ヒマスカラ御同致シマス

○松岡政府委員 石炭ノ問題ガ國トシテ洵ニ緊迫シタル狀況ニアルコトハ御説ノ通りデアリマス、此ノ狀態ニ即應スベク進行中デアリマスルノデ、御期待ニ副ヒ得ル時ガ遠クナイト存ジマス、之ヲ輕ク見テ居ルトカ或ハ怠慢ダトカ悠長ダトカ云フコトハ決シテナイト確信シテ、只今申シマシタヤウニ折角進行中デアリマス、其ノ内容ハ御示シヲ申上グルコトガ出來マセヌノハ洵ニ残念デアリマス

○沖島委員 商工省ノ方ニ於キマシテハ現内閣ガ出來テ以來商工大臣ハ殆ド連日石炭對策ノ問題ニ付テ省議ヲ開キ、幾多石炭ノ計畫ヲ發表ニナツテ居ル、拓務省ノ方ハ石炭ト言ヘバ主トシテ樺太ニ關係スル點ダケデアリマスカラ、今少シク御勉強ニナツテ、近クト云フヤウナ悠長ナコトデナシニ、大急ギデ此ノ議會中ニ計畫ヲ御發表ニナルヤウニ御願シタイト思ヒマス、ソコデ樺太ノ民營炭坑ニ對スル増産計畫、是ハ昨年モアリ本年亦重ネテ増産計畫ト云フモノガアル譯デス、其ノ増産計畫ニ付テ成ベク詳細ニ御説明ヲ願ヒタイ

○棟居政府委員 一寸數字ニ互リマスノデ、其ノ分ハ委員長ニ於テ然ルベク御取計ヒ願ヒタイト思ヒマス

○中野委員長 ソレデハ一寸速記ヲ止メテ下サイ

〔速記中止〕

○中野委員長 ソレデハ速記ヲ始メテ下サイ

○沖島委員 増産ガ豫期ノ如ク行カナカツ

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
樺太鐵道株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)(第七〇號)
樺太地方鐵道補助法中改正法律案(政府提出)(第八〇號)

タト云フ原因ハハモウ内地ト同様デアリマシテ、資材努力ノ不足ト云フヤウナコトガ主タル原因デアラウト想像致シマスガ、内地デモ一大増産計畫ノ爲ニ努力物資ト云フコトニ付テハ昨年ヨリモ本年ハ一層窮屈ニナル、サウ云フ一般ノ事情ノ下ニ長官ノ御述ニナツタヤウナ十四年度カラ十七年度ニ對シテ實ニ飛躍ノ増産計畫ヲ盛込シテ居ルガ、昨年デスラモ出來ナイモノヲ一層努力資材ノ不足シタ今後ニ於テソレガ出來ルト云フコトハ、餘程資材努力ノ上ニ於テ、何カ特別ニ確實ナ御計畫ガナケレバナラスト思フ、机上ニ大キイ數字ヲ出スコトハ簡單デアリマスガ、實行ノ困難ナコトハ、昨年來ノ經驗ニ依ツテ御承知ノ通りデアリマス、努力ト資材ノ點ニ付テ何カ特別ナ準備ガアツテソレガ出來ル確信ガアリマスカ、ソレニ付テ納得ノ行クヤウナ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○榊居政府委員 何處モ同ジ努力資材ノ惱ミデアリマシテ、特ニ樺太ハ石炭ノ増産上ノ二大要素ニ相成ツテ居リマス人的物的ノ兩條件ニ付キマシテ、實ハ異常ナ苦勞ヲ致シテ居リマス、官民共ニ最善ヲ盡シテ居リマシテモ、尙ホ意ニ副ハナイ、現ニ十四年度ノ資材ニ付テ申上ゲマスルナラバ、マダ三月ガ一月バカリ殘ツテ居リマスケレドモ、十四年度中ノ資材配給狀況ハ大體三十四五%不足致スコト考ヘテ居リマス、内地ハ六%位ノ不足ニ止マルノデハナイカト吾々ハ豫想致シテ居リマスガ、樺太ハ其ノ數倍ノ不足ヲ告ゲル、又努力モ足ラナイカラ到底多數ノ從業員ヲ調達スルコトハ至難デアリマスガ故ニ結局北海道、東北方面、進シテハ朝鮮カラ各種ノ手段ヲ盡シテ募集シテ

居ルノデアリマスガ、其ノ幾分ヲ募集シ得タニ過ギナイノデアリマシテ、到底吾々ガ立テテ居リマスル増産計畫ノ遂行ニ必要ナ勞務ノ陣容ヲ整ヘルコトハ出來ナイノデアリマス、而モ是ガ四月五日頃——早ク資材及ビ勞務者共ニ參リマセヌ以上ハ、樺太ト致シマシテハ其ノ年度ノ増産計畫ノ遂行ト云フコトガ殆ド致命的ノ影響ヲ受ケルコトニ相成リマスノデ、成ベク是等ノモノヲ早ク樺太ニ誘致スベク手段ヲ盡シテ居リマスガ、形勢ハ思ハシクナイ、併シ此ノ儘成行ニ放置スルコトハ出來マセヌノデ、本年度ハ政府ノ方デモ石炭ノ採掘ニ要スル資材ニ付テハ特ニ優先的ナ配給ノ取計ヲスルト云フ方針ト心得テ居リマスシ、又勞務者ニ付キマシテモ萬策ヲ講ズルト云フ風ニ大體決定相成ツテ居リマスノデ、樺太廳ト致シマシテハ是亦官民相呼應シテ船腹ノ確保ト相俟チマシテ資材努力ノ必要量ノ確保ニ付キマシテハ、只今必死ニナツテ努力ヲ致シテ居ル次第デアリマス、十四年度ヨリモ稍、好轉ヲ致スノデハナイカト云フ風ニ期待ヲ致シテ居リマス

○沖島委員 最近政府デ石炭ノ増産ノ爲ニ色々ナ計畫ガ發表セラレントシテ居リマスガ、石炭ノ増産ノ爲ニ増産獎勵金ヲ出ス、樺太ニ於キマシテモ其ノ獎勵金ノ交付ノ恩典ニ浴スルコトト思ヒマスガ、樺太ハ増産獎勵金ヨリ特ニ資材ト努力ト云フ點ニ重キヲ置ネバナラス、先日樺太ノ炭坑業者ノ二三ノ者カラ私ノ所ヘ電報ヲ寄越シテ、政府ハ増産獎勵金ヲ出スト云フガ、樺太ハ増産獎勵金ヨリモ努力ト資材ヲ遺憾ナク供給シテ貰ヘバ割當テラレタ石炭ノ増産ハ必ズ致シマス、其ノ樺太ノ特殊事情ヲ特ニ考慮シテ

貰ハナケレバナラスト云フコトヲ訴ヘテ居リマシタガ、是ハ内地ト遙ニ距ツタアア云フ土地デアリマスカラ、資材デモ努力デモ其ノ悉クヲ内地カラ仰グト云フ地域デアリマスカラ當然サウ云フ事情ガ存スルモノト思ヒマス、ソコデ樺太廳デハ只今長官カラ必死ニナツテ石炭ノ増産計畫ヲシテ居ルト言ハレルノデアリマスガ、先程御發表ニナツタ數字ノ増産ヲ豫定通り實現スル爲ニハ私ハ到底樺太廳ダケノ力デハイカスト思フ、拓務省ガ之ニ十分援助ヲ與ヘ協力スルト云フ態度ヲ示サナケレバ駄目ダト思フ、拓務省ハ事變ノ外地政策ニ特ニ意ヲ注ガレテ、朝鮮ノ米、臺灣ノ米、樺太ノ石炭、南洋ノ「ボーキサイト」等ノ増産ニ最善ヲ盡シテ居ルト云フヤウナコトヲ先般拓務大臣ハ豫算委員會デ御發表ニナツテ居リマス、此ノ石炭ハ唯樺太島内の産業デヤナイ、大ナル國策上ノ重要資源デアリマスカラ、是ハ樺太廳ダケニ委シテ置イテ何カ氣ニクワヌ點ガアレバ小言ダケヲ言フト云フヤウナ從來ノ拓務省ノ態度デハイカスト思フ、ソコデ私ハ一ツ伺ツテ見タイコトハ、本當ニ石炭ノ増産ヲヤルト云フナラバ、今ノ樺太廳ノ鑛務課ノ陣容デハヤレスト思フ、特ニ樺太廳ニ石炭増産計畫部ト云フヤウナモノヲ拵ヘテ、努力資材ニ付テハ中央カラ十分ニ之ヲ援助スル、石炭ノ増産ソレヲ特別ニ使命トスル一ツノ部ヲ設置スルト云フコトガ必要デアラウ、ソレデナケレバ、努力ト云フコトデモ、時々樺太廳ノ役人ガヤツテ來テ警視廳ヤ厚生省ニ交渉スル、普段此處ニ居ナイカラ何處ノ役人カ分ラスト云フ程度デ連絡ガナイ左様ナヤリ方デハ到底旨ク行カスト思フ、此ノ臨時石炭増産部ト云フモノヲ拵ヘテ、増産計

畫ヲ御立デニナルヤウナ御考ハゴザイマセヌカ、今マデナクテモ、今ノ私ノ提案ニ付テドウ云フ風ニ御考ニナリマスカ、是ハ拓務省ノ方カラ御答辯願ヒタイ

○松岡政府委員 樺太ノ石炭増産ニ付テ樺太廳ニノミ委セテ少シモ構ハナイデヤナイカト云フ御意見デアリマシタガ、拓務省トシテハ國策ニ順應シテ石炭ノ増産ニ特ニ心ヲ用ヒテ居ルノデアリマス、何シロ本年ノ冬季中ノ西海岸方面ノ荒天ノ爲ニ、非常ニ船舶ノ手ニ入ルコトガ難シカツタ爲ニ、已ムヲ得ザル結果ニナツテ違算ヲ生ズルヤウナコトニナツタノデアリマスケレドモ、今後ハ十分ニ心ヲ用ヒテ萬違算ナキヤウニ、豫定通りノ生産擴充ニ邁進シテ、資材ノ供給、或ハ人的資源等ニ付テハ勿論力ヲ添ヘテ參リタイト思フ次第デゴザイマス、特ニ後段ノ御説ノヤウナ點ニ付テハ、能ク慎重ニ研究シテ善處致シタイト思フ次第デアリマス

○沖島委員 是ハ樺太廳ノ人事ニ關スル點デアリマスガ、樺太廳ノ内務部長ハ缺員ニナツテ既ニ半年ヲ經過シ其ノ儘ニ放任サレテ居リマス、斯様ナコトハ殆ド他ニ例ガナイト思フ、併シ今度任命スル以上ハ、相當ニ手腕ノアル人物ヲ任命スル、人選ニ慎重ヲ期スルガ爲ニ遲レテ居ルト云フノデアレバ、急イデオ粗末ナ人選ヲスルヨリモ或ハ結構カモ知レヌ、併シナガラモウ半年モ放任シテ居ル、是デハ樺太ニ對スル拓務省ノ態度ハ大體其ノ程度ニ無關心不親切ナモノデハナイカト云フ風ニ見ラレル、ソコデ私ハ今度内務部長ヲ人選スル場合ニハ、石炭ノ増産ニ付テ特ニ手腕ヲ持ツテ居ル人物サウ云フコトヲ標準ニシテ人選サレタラ、今

マデ遅レタ怠慢ヲ補ウテ餘リガアル、斯ウ
云フ風ニ考ヘル、是ハ今御答辯ヲ願フノデ
ハアリマセヌガ一寸私ノ希望ヲ申上ゲテ置
キマス

次ニ御伺シマスコトハ、昨年ノ議會で成
立シマシタ樺太人造石油會社ハ、既ニ創立
サレテ事業ニ著手シテ居ルヤウデアリマス
ガ、其ノ事業ハ豫期ノ如ク行ツテ居リマスカ、
サウシテ機械ハ獨逸カラ輸入スルデアラウト
思フガ、今ノ歐羅巴ノ國情カラ見テ豫期シタ
機械ガ獨逸カラ入ツテ來テ、豫期シタ如ク事
業ガ進捗シマセウカ、此ノ點ヲ一寸御伺致
シタイ、同時ニ内幌ノ三菱油化工業ノ方ノ
成績モ御差支ガナカウツヲ御發表願ヒタイ
○樺居政府委員 御尋ノ昨年御協賛ヲ得マ
シテ、明治四十五年法律第二十三號ヲ局部
的ニ改正ヲ致シ、之ニ基キマシテ人造石油事
業ニ對シテ、特ニ封鎖炭田ヲ開放スル途ヲ
設ケタノデアリマスガ、其ノ後帝國燃料興
業株式會社ノ幹部ト色々交渉ヲ重ネマシテ、
昨年五月二十九日ニ資本金四千圓ノ樺太
人造石油株式會社ノ新設ヲ見ルニ至リマシ
タコトハ御承知ノコトト存ジマス、會社ハ
設立刻、七月カラ直チニ現地ニ付キマシテ
調査其ノ他工地上ノ各般ノ用意ヲ極メテ手
際良ク進メマシテ、又樺太廳ト致シマシテ
モ、殆ド出來得ル限りノ協力支援ヲ致シマ
シテ、吾々モ豫期以上ニ總テノ事業ガ所謂
トン／＼拍子ニ進シデ居リマスコトニ満足
ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、鐵道ノ關係、
工場用地ノ關係、石炭ノ採掘ノ關係、或ハ發
電所デアルトカ墜道ノ掘鑿デアルトカ云フ
コトハ、目下實ニ奇蹟的ナ成果ヲ擧ゲテ居
ルノデアリマス、隨ヒマシテ著業以來半年
勿、今日既ニ石炭ヲ出サウト云フコトニ相

成ツテ居リマシテ逐年急速増産ノ豫定ヲ以
テ、只今具體的ニ準備ヲ進メテ居リマス、恐
クハ悉ク其ノ計畫通り運ブモノト斯様ニ
期待ヲ致シテ居ル次第デアリマス、準備ガ
非常ニ手際良ク進シデ居ルト云フコトヲ御
諒承願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ低溫乾
溜及ビ水添ノ機械ノ入手ガ歐洲戰争ノ突發
等ノ關係上、非常ニ困難ニナツテ居ルコト
ハ事實デアリマス、併シナガラ大藏省ナド
ノ御力添ヘモアリマシテ、獨逸トノ間ニ話
合ガ繼マリマシテ、相當ノ特許料ヲ支拂フ
コトニ相成リマスルガ、只今適當ナ時期ニ
機械ノ設計及ビ現品ノ獲得ニ付キマシテ手
筈ヲ進メテ居ル譯デアリマシテ、御心配ニ
相成ルヤウナコトハナイト考ヘテ居リマス、
ソレカラ内幌ノ低溫乾溜ノ方ハ増産計畫ヲ
昨年來立テマシテ、漸ク豫期ノ工場ガ完成
致シマシタ、唯勞働者ガ不足致シテ居リマ
スル爲ニ、石炭ノ採掘ガ思ハシクナイノデ、
四ツ程乾溜爐ヲ造ツテ居リマスルガ、半分
ハマダ運轉ヲシテ居ナイト云フ狀態ニナツ
テ居リマス、是モ近ク全能力ヲ發揮スルコ
トニナラウト考ヘテ居リマス

○沖島委員 封鎖炭田ノ開發計畫ニ付テ今
拓務省デ折角御研究中ダト聽キマスガ、是
ハ前ニモ申上ゲマシタヤウニ、成ベク急イ
デ此ノ計畫ヲ實現サレンコトヲ希望スル者
デアリマス、ソレニ致シマシテモ、是カラ
何等カノ方法デ新シイ國策會社デモ拵ヘテ
オヤリニナルノデハナイカト云フ風ニ想像
致シマスガ、如何ニ急イデヤツテモ、新シ
イ會社ガ陣容ヲ整ヘ、現地ノ設備ヲシテ石
炭ヲ掘出スニハ、ヤハリ相當ノ時間ヲ要ス
ルノデアリマス、ソコデ私ハ昨年ノ議會デ
モサウ云フコトヲ申上ゲタノデスガ、此ノ

法律第二十三號ヲ改正シテ、人造石油事業
ヲ營ム者ニハ競争入札ニ依ラナイデ、隨意
契約デ石炭ヲ掘ラセル、燃料石炭ヲ掘ラセ
ルコトニ付テ相當當局ニ難色ガアツタヤウ
デアリマスガ、吾々ガ強ク主張シタ結果、
澁々ト云フ態度デ、此ノ燃料缺乏時代ニ鑑
ミマシテ、燃料石炭モ掘ルコトガ出來ルト
云フ風ヲ御解釋ノ御發表ガアツテソレニ基
イテ今事業ヲ起サレテ居ルヤウデアリマス
ガ、其ノ考ヘ方カラシマシテ、封鎖炭田ノ
中ノ内堀方面ノ開發ニ付テハ、今現ニ樺太
人造石油會社ガアル、是ハ本來ノ使命デ
アル所ノ液化事業ニ著手シナケレバナラス
ガ、ソレハソレトシテ、兎ニ角大急ギデ一
應ノ石炭デモ餘計ニ掘ルコトヲ政府ノ方カ
ラ督勵シテヤラセル、炭田ハ實ニ豊富ダカ
ラ、何程デモ掘レル、サウシテ既ニ其ノ陣
容ハ出來テ居リ、設備モ進行中デアリマス
カラ、封鎖炭田ノ石炭ヲ產出スルコトニ付
テハ、是ガ一番效果的デハナイカト思ヒマ
ス、今一ツハ、同様ノ會社、三菱油化工業
ガ南部ノ封鎖炭田ノ地域内ニアル、是モ今
内幌石炭ヲ掘ツテ居ルガ、其ノ意味ニ於テ
雨龍炭田ト云フカ、奥内幌ト云フカ大變大
キナ封鎖炭田ガ、完備シタ三菱ノ炭坑設備
ノツイ近所ニアル、アレ程ノモノヲ拵ヘル
ニハ數年掛ル、ソコデソレヲ延長シテ新シ
イ南部封鎖炭田ノ開發ニ著手セシムルト云
フ考ヘ方ノ方ガ、一番早く石炭ヲ出ス方法
デアルガ、法律ノ關係上他ノ會社ニヤラセ
ルコトガ出來ナイ、サウ云フ風ニ私ハ考ヘ
ルノデアリマスガ、之ニ付テノ御所見ハド
ウデアリマスカ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○松岡政府委員 樺太ノ封鎖炭田ノ開發ニ
關シハ先程モ御答辯申上ゲマシタヤウニ、
內容等ニ付テハ暫ク御許シテ願ヒタイト思
ヒマス、併シナガラ萬全ノ途ヲ迪ツテ遺憾
ナキヲ期スベク、而モ順調ニ進行中ナノデ
アリマス、只今御示シノ點ハ、能ク拜聽致
シマシタガ、繰返シテ申上ゲマス通り、內
容及ビ「アウト・ライン」等ノコトニ付テハ、
只今申上ゲ兼ネマスコトヲ非常ニ残念ニ思
フ次第デアリマス

○沖島委員 先日此ノ委員會デ前川君デシ
タカ、米ノ問題デ實ニ血ノ出ルヤウナ金ヲ
出シテ外國カラ米ヲ買フ、サウ云フコトヲ
ヤラスデモ、臺灣ノ米ノ増産ニ政府ガ今少
シク積極的デアレバ、サウ云フコトヲヤラ
スデモ濟ム筈デハナイカ、ト非常ニ悲痛ナ
態度デ御述ベニナリマシタガ、私ハ此ノ事
ヲ石炭ニ關シテモ同様ニ考ヘルノデアリマ
ス、石炭ヲ僅カ十萬噸カ、二十萬噸外國カ
ラ買付スル、其ノ事ダケデ如何ニ日本ノ
國力ガ窮乏シテ居ルカト云フコトヲ外國ニ
暴露シテ遺憾千萬デアリマスルカラ、私共
ハ昨年來樺太ノ石炭——樺太ト云フト兎角
中央デハ閑却サレルガ、何ト云ツテモ石炭
ノ増産ハ樺太ガ一番有利ナ地位ニアル、商
工省ヘ行ツテモサウ云フ話ヲシタ、或ハ樺
太ハ商工省ノ管轄デナイカモ知レマセヌガ、
石炭ト云フ點カラ言ヘバ、支那ニ莫大ナ石
炭ガアル、滿洲ガドウト云ツタ所デ、直チ
ニソレガ内地ノ市場ニ來ルモノデハナイ、
一番手取り早く此ノ石炭ヲ内地ニ齎スニハ、
樺太ニ著眼シナケレバナラスト云フコトヲ
力説スルノデアリマスルケレドモ、ドウモ
役所ノ例トシテ、管轄違ヒノコトニハ力癩
ヲ入レナイ、是ハ拓務省ニ行ツテ話ヲシテ、
吳レト云フノデ、拓務省ニ行ツテ話ヲシテ、
議會デ折角大臣ガ出テ答辯ヲシテモ御座

ナリデ、其ノ内ニ大臣ハ更迭シテ、忘レタヤウナ額ヲシテ今頃ニナツテ考慮中デスト言フ、吾々ガ昨年ノ議會カラ言ツテ居ル半分ノ認識デモ拓務省ニアレバ、外國カラ十萬噸位ノ石炭ヲ買ハナケレバナラスト云フヤウナ馬鹿氣タコトヲスル必要ハナイ、僅ニ十萬噸ハ二十萬噸デアル、ドウモ御役所ノ態度ニ私共ハ非常ニ遺憾ヲ感ズルノデアリマス、ソコデ私ハ一ツ拓務省ニ一大御發奮ヲ願ヒタイ、拓務省ト云フモノハ各省ノ中デ一番新店デ、何カト云フト拓務省廢止論ナドガ出マスカラ、モウ少シ拓務省ノ存在ヲ示サナケレバナラス、今日ハ幸ニモ朝鮮ノ米トカ臺灣ノ米ガ來ナカッタ、日本ノ國ハドウナルカト云フコトデ、拓務省モ稍、威張レル、ソレト同等ナ立場ニ於テ樺太ノ石炭モ威張レルモノヲ何故ニソコニ力ヲ入レナカツタカ、私ハ甚ダ遺憾ニ感ズルノデアリマスガ、一大發奮ニ依ツテ樺太石炭増産ニ付テ、國策的ニ御計畫ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソコデ先程一寸御尋致シタノデアリマスガ、臨時石炭増産ト云フヤウナコトヲオヤリニナル御考ハアリマセヌカ、モウ一遍御尋致シマス

○松岡政府委員 樺太ノ事情ニ付テ最モ權威アル沖島君ノ、只今ノ御意見ノ開陳ニ對シテハ、慎ンデ敬意ヲ表スル次第デアリマス、遅レタリト雖モ國策ニ順應スベク、又御期待ニ副フヤウニ近イ内ニ御示申上ルコトガ出來ルト存ズル次第デアリマス、石炭飢饉ノ此ノ際ニ於テナゼ斯ウデアツタカト云フ過去ノコトニ付テハ、色々ナ點ニ付テ何ト申シマスカ、慎重ヲ期シテ、悠長デヤナイカト云フ御説モアリマシタケレドモ、石炭ノ飢饉ハ事實此ノ通りデアリマスカラ

シテ、之ニ對シテ悠長ニ構ヘテ居ラレル答ノモノデヤアリマセヌ、サウ云フ意味デヤツテ居ルノデアリマスカラ、ドウゾ御諒承ヲ戴キタイト存ジマス、必ズ近イ中ニ御納得ノ行クモノガ現ハレルコトト思ヒマスカラ、折角之ニ付テ善處致シタイト思ツテ居ル次第デアリマス、只今ノ臨時石炭増産ニ付テ何等カノ考ヲ持ツテ居ルカト云フ御説ニ對シテハ、御意見ノ程ヲ慎ンデ拜聽致シタイト思ヒマス

○沖島委員 樺太ノ封鎖炭田竝ニ其ノ他ノ關係ニ付キマシテ、一大増産計畫ヲ進メルト云フコトニ付テ、政府委員ノ御答辯ガアリマシタガ、此ノ點ニ付テハ尙ホ私ハ大臣カラモ御決心ヲ承リタイト思ヒマスノデ、政府委員カラ大臣ニ豫メ此ノ點ヲ御傳ヘ置キヲ願ヒタイト思ヒマス、次ニ本案ニ直接關係ノアル鐵道ノ問題、竝ニ港灣ノ問題ニ關シテ御尋致シタイト思ヒマス、樺太鐵道株式會社、私設鐵道ノ買收豫定價格ガ二千三百萬圓トコニ見積ツテアルヤウデアリマスガ、之ヲ今新ニ國デ是カラ建設スルト云フコトニナレバドレ位ノ費用ガ掛リマスカ、ソレカラ買收後ニ於テ國鐵並ミニ改良スレバ、ドレ程ノ改良費ガ要ルノデアリマスカ、ソレカラ國營ニ移ツテ後ノ鐵道會計ノ收支ノ豫想營業成績ハ、ドウ云フ風ニ見デオ居デニナルカト云フコトヲ承リタイト思ヒマス

○棟居政府委員 樺鐵ヲ時價デ買收スルトスレバ、凡ソ幾ラノ金額ヲ要スルカト云フコトハ、是ハ吾々ノ方デマダ具體的ニ檢討致シタコトモゴザイマセヌノデ、餘程精細ニ調べマセヌト的確ナ數字ヲ申上ルコトハ出來ナイト思ツテ居リマス、二千四百萬圓ノ買收價格ハ固ヨリ過去ノ建設費ノ累積デアリマスガ、之ヲ現在ノ價格ニ換算スルト幾ラニナルカト云フコトニ付キマシテハ、一應固ヨリ吾々ノ方デモ調査致シマスガ、只今即答ハ致シ兼ねル次第デアリマス、第二點ハ樺鐵ヲ買收シテ之ヲ國鐵並ミニ整備スルニハ、幾ラノ改修費ヲ要スルカト云フ御尋デアリマスガ、只今ノ目算デハ大體千五百萬圓位要ルノデハナイカト思ヒマス、ソレハ軌條費ガ五百萬圓、車輛費ガ五百萬圓、其ノ他ノ工作物等全部ヲ含ミマシテ五百萬圓、大體千五百萬圓ハ最小限度必要デハナイカト考ヘテ居リマシテ、隨テ之ヲ數年度ニ分チマシテ適宜ノ方法ニ依ツテ、改良整備ヲ實行致スト云フ計畫ヲ一應持ツテ居ル次第デアリマス、ソレカラ第三點ハ移管後ノ營業ノ見透シデアリマスガ、是ハ只今申上ゲマシタ莫大改良費ヲ固ヨリ除キマシテ、經常的ナ營業收支ニナルノデアリマスガ、支出ノ方デ減ジマスルノハ御承知ノ通りニ補助金デアリマス、之ニ對シマシテ收入ノ方デハ税金等ガ若干殖エマス、其ノ他普通ノ營業收支ニモナリマスガ、當分ノ間ハ運賃等ヲ相當値下ゲテ致シマシテ、貨物及ビ旅客共ニ運賃ヲ相當ノ幅デ値下ゲテ致サナクテハナラス、サウシテ國鐵並ミニ之ヲ致シマス其ノ反面ニハ、貨物モ旅客モ漸増ノ傾向ヲ辿ツテ居リマスノデ、收入増モ豫想サレマスガ、彼是レ相殺致シマストヤハリ收支ノ點ニ於キマシテハ、赤字ガ繼續致スノデアリマス、唯併シ相當ノ期間ヲ經マシタ後ニハ、是ハ漸次黒字ニ轉換ヲスルト云フ風ニ豫想致シテ居リマス、情勢ガ是レノト云フ風ニ確實ニ見透スコトハ必ズシモ出來マセヌケレドモ、大體ニ於キマ

シテ十年後位ニハ、立派ニ黒字ニナルト豫想シテ居リマス、細カイ數字等モ持合セテ居リマセヌガ、大體當分ノ間ハヤハリ赤字ガ續キ、十年前後ニ黒字ニ轉換スル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマスルガ、一方改良費ガ非常ニ澤山掛リマスノデ國ノ負擔トシテハ新シク加ハル譯デアリマス

○沖島委員 鐵道省ノ私設鐵道ヲ買收シテ經驗成績ニ依リマス、何時デモ豫想シタヨリモ實際ハ其ノ收入ガ殖エル、是ハ國力ノ發展カラ來ル當然ノ結果ト思ヒマスガ、樺太モ必ズ私ハ今豫想サレテ居ルヨリモ收入ハ増加スルモノト考ヘマス、サウナルコトガ又拓殖鐵道ノ目的デアル、又サウナラナケレバナラス、デアリマスカラ、十分ニ此ノ改良費ヲ出サレマシテ、北ノ方面ノ開發ニ寄與シ、買收ノ目的ヲ達スルヤウニサレンコトヲ希望スルノデアリマス、ソレカラ先年樹立サレマシタ樺太拓殖十五箇年計畫、ソレノ計畫ノ際ニハ或ハ其處マデ考ヘテ居ナカツタカモ知レマセヌガ、今ノ先程來申シマスルヤウナ石炭ノ問題ガ重要ニナツタ國情カラ致シマスルト、樺太ノ鐵道港灣ノ施設ト云フモノハ、全島各地カラ採掘サレル所ノ石炭ノ搬出竝ニ島外ヘノ移出ト云フコトニ最モ重點ヲ置イテ、其ノ施設ノ完備ヲシナケレバナラス、斯ウ云フ風ニ私ハ考ヘマス、此ノ前ノ拓殖計畫ノ時ニハソレ程マデニ考ヘテ居ナカツタカモ知レマセヌガ、今ノ國情カラスレバサウ云フ風ニ考ヘル、サウシテ現在ノ港灣デアリマスル所ノ大泊、眞岡、本斗、惠須取、敷香、是等ノ港灣ノ背後ニハソレノ封鎖炭田或ハ其ノ他ノ民有炭田ノ頗ル豊富ナル炭田ガアルノデアリマス、當局ニ於カレマシテハ、其

シテ十年後位ニハ、立派ニ黒字ニナルト豫想シテ居リマス、細カイ數字等モ持合セテ居リマセヌガ、大體當分ノ間ハヤハリ赤字ガ續キ、十年前後ニ黒字ニ轉換スル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマスルガ、一方改良費ガ非常ニ澤山掛リマスノデ國ノ負擔トシテハ新シク加ハル譯デアリマス

シテ十年後位ニハ、立派ニ黒字ニナルト豫想シテ居リマス、細カイ數字等モ持合セテ居リマセヌガ、大體當分ノ間ハヤハリ赤字ガ續キ、十年前後ニ黒字ニ轉換スル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマスルガ、一方改良費ガ非常ニ澤山掛リマスノデ國ノ負擔トシテハ新シク加ハル譯デアリマス

ノ各港ノ灣ノ勢力範圍ト云フモノ、或ハ擔任區域ト云フモノ、其ノ地域ヲ豫定シテ、サウシテ鐵道ナリ港灣ノ施設ヲスルト云フ風ニナサレナケレバナラヌト考ヘマスガ、サウ云フコトニ付テ何カ御調査ガゴザイマスカ、アレバ之ヲ承リタイ

○棟居政府委員 樺太ノ港灣ハ樺太ノ拓殖上ノ見地カラソレハ適所ニ之ヲ修築致シテ參ツタノデアリマスルガ、何分ニモ此ノ兩三年來ノ石炭ノ大増産、サウ云フコトハ拓殖十五箇年計畫ニ於テハ、固ヨリ豫想シテ居ナカッタノデアリマシテ、其ノ當時ハ百萬噸ソコノ石炭ヲ大體ノ目安ト致シテ居ツタノデアリマス、然ルニ二三年後ニハ前述ノ如キ情勢ニナリマスル以上ハ、從來ノ計畫ヲ以テハ適應シナイコトハ當然デアリマス、隨ヒマシテ取敢ズ最モ石炭ノ増産上ニ重點ヲ置イテ居リマスル惠須取方面ニ昭和十四年度以來六百五十萬圓ノ豫算ヲ以テマシテ、年間四百萬噸ノ積出能力ノアル設備ヲ只今工事ニ著手致シテ居ル次第デアリマスルガ、固ヨリ惠須取方面カラハ、更ニソレ以上ノ積出ヲ豫想シナクチャナラヌト考ヘテ居リマスノデ、漸次ハ整備擴充致スト云フコトニ致シテ居リマス、又大泊港モ背後地ノ炭田ノ開發、即チ主トシテ内淵炭田デアリマスガ、是ト川上炭坑、此ノ炭坑ノ移出餘力ヲ大體六十萬噸程度ト考ヘテ居リマス、或ハ七十萬噸位ニ上ルカモ知レマセヌ、之ニ即應致シマスヤウニ大泊港ノ修築ヲ同様ニ調整ヲ致サナケレバナラヌト考ヘマシタノデ、昭和十五年度及十六年度ノ兩年ニ互リマシテ八百五十萬圓バカリノ經費ヲ追加致シマシテ、石炭積出ニ關シマス局所ノ修築ヲ致スコトニ致シテ居

リマス、是ガ出來マスレバ陸上ノ設備ヲ必要ナ程度ニ新設致スコトハ固ヨリデアリマスガ、港灣ト致シマシテハ大泊ノ方面ハ是デ大體差支ナイノデハナイガラウカ、尙ホ東海岸及ビ西海岸ノ南部デアリマスガ、是ハサウ大量ノ石炭ヲ輸出スルト云フ地方デハアリマセヌノデ、現在ノ狀態ニ於キマシテハ、餘リ思切ツタ金ヲ掛ケテ港灣ヲ修築乃至ハ擴充スルト云フ必要ヲ認メテ居リマセヌ、結局惠須取ト大泊トニ力點ヲ置クト云フ風ニ致シテ居リマス、現在ソレハ其ノ方向ニ向ツテ進ンデ居リマス、併シナガラ昭和十八年度ノ前述ノ如キ石炭量ヲ出スト云フコトニナリマスレバ、到底只今ノ容量デハ「マッチ」出來マセヌノデ、ソレニ對シマシテハ成べく速ニ更ニ港灣修築計畫ヲ修正計畫ヲ立テナケレバナラヌト考ヘテ居リマス

○沖島委員 石炭ノ輸出港トシテ惠須取、大泊ニ重點ヲ置ク、是ハ無論サウナクテハナラヌノデアリマスガ、其ノ他ノ眞岡ハ豐眞線ノ清水方面ニ案外立派ナ炭田ガアル、ソレカラ本斗ハ南部封鎖炭田ノ奥内幌、南名好、ソレカラ現在ノ内幌デモ相當豐富ナ炭坑ガアリマシテ、其ノ他數方面デモ同様北部ノ封鎖炭田ガアリマス、ソレハ石炭ノ輸出港トシテ相當積極ノ施設ヲスル必要ガアルト私ハ考ヘマス、餘リ多クヲ期待出來ナイト云フヤウナ今ノ長官ノ御説明ハ、私ノ認識カラスルト甚ダ遺憾ニ考ヘマス、是ハ是レ以上御答辯ヲ求メマセヌ、ソコデ惠須取以北ノ國境ニ達スル地域、是ハ全部優良ナル炭田ノ連續地帯デアリマス、他日日本ノ内地需用ノ石炭地域的ニ密集シテ居ル點デハ、何ト云フモ樺太ノ惠須

取以北國境マデノ炭田地域、此處カラ出ル石炭ガ一番重要ナ使命ヲ持ツト云フ時期ガ間モナク來ルト思フ、ソコデ惠須取ノ港灣ノ相當大ナル御計畫モアリマスルガ、國境マデノ鐵道ハドウナル、斯ウ云フ將來ニ對スル施設ハ何時マデモ政府ノ施設ハ後手デ規模ガ小サイ、後手ニナラヌヤウナ規模ノ大ナル施設ヲシタノハ、臺灣ヤ滿洲ノ後藤伯爵ノヤツタ所ニ行ツテ見ルト、十年二十年後ヲ見越シテ、成程ト云フヤウナモノガアルケレドモ、其ノ他デハ何時モ規模ガ小サクテヤリ直シテ居ル、比々皆然リ、此ノ惠須取方面ノ非常ニ有望ナ石炭ニ對シテ、餘程港灣鐵道ニ對シテ大ナル施設ヲ爲サナケレバナラヌノデアリマスルガ、港灣ハ宜シイガ、國境マデノ鐵道ハドウ云フ御考デアリマスカ

○棟居政府委員 惠須取方面ニ對スル海陸兩方面ノ設備ハ、只今御指摘ノ如ク甚ダ貧弱且ツ緩慢デアリマシテ、其ノ點ハ目下ノ異常ナ情勢ノ變化ニ伴ツテ居ナイコトハ十分認メテ居リマス、併シナガラ惠須取方面ガ百花一時ニ開クガ如ク斯様ナ大發展ヲ遂ゲマシタノハ、昭和十二年カラデアリマシタマダ三年ニテカナラヌカデアリマシテ、此ノ間ニ港灣モ手ヲ著ケ、鐵道、道路其ノ他必要ナル種々ノ施設ヲ一時ニ充實致シマスコトハ、樺太廳ノ財政カラ見マシテモ、又其ノ當時ノ民力カラ見マシテモ殆ド望ムベクシテ期シ得ナカッタコト存ジマス、併シナガラ事態ガ甚ダ急ヲ告ゲテ居リマス爲ニ、急遽本年カラ港灣ノ修築ニ著手致シ、又鐵道ト致シマシテハ、樺太廳ノ鐵道ハ只今工事ノ半バデアリマスガ、昭和十八年度ニ之ヲ完成致ス豫定ヲ以テ進行致シテ居リ

マス、ソレハ西海岸デアリマス、斯様ナ相當大キナ國費ノ負擔ガアリマスノデ、石炭ヲ主トシテ運ビマス鐵道ハ、民間ニ協力ヲ求メルコトニ樺太廳ト致シマシテハ意向ヲ決定致シマシテ、取敢ズ惠須取ヲ起點ト致シマシテ塔路方面及ビ大平方面ノ石炭ヲ運ブ鐵道ヲ千二百萬圓ノ資本金ヲ以テ私設會社ヲ以テ經營サセルト云フコトニ致シテ居リマシテ、只今既ニ手續ヲ運ンデ居ル次第デアリマス、是ハ極メテ圓滿ニ業者ノ協力ヲ得ルコトニ相成ツテ居リマス、尙ホ國境方面ニ向ツテハ只今道路ヲ開設シテ居リマシテ、是ハ十七年度中ニハ國境マデ多分開設スルコトガ出來ルト思ツテ居リマス、非常ナ斷崖絶壁ヲ縫ウタル難工事デアリマシテ、鐵道ヲ之ニ並行シテ敷設スルト云フコトハ非常ニ大キナ費用ヲ要スルノデハナイカ、先ヅ道路ヲ先ニ著手致スコトノ方ガ得策デアル、斯様ニ存ジマシテ只今申上ゲタヤウナ運ビニ致シテ居ル次第デアリマス、尙ホ石炭等ノ搬出ト致シマシテモ、樺太ハ御承知ノ通りニ石炭ガ海岸ニ並行シテ賦存シテ居リマスノデ、強ヒテ鐵道ニ依ラナクテモ大體四月カラ十一月マデハ海岸カラ搬出シ得ルノデアリマシテ、結局冬期間ダケ惠須取港ヲ利用スルコトニナリマスノデ、石炭ノ搬出上極度ノ不便ハナイト考ヘテ居リマスガ、併シ多々益辨ズデ鐵道ガアレバ之ニ優ルコトハナイノデアリマシテ、取敢ヘズ道路ヲ完成シ、次ニ鐵道ト云フコトニ考慮ヲ進メテ行カナケレバナラヌモノト考ヘテ居リマスガ、是ハ非常ニ大キナ費用ヲ要スル難工事デアルト云フヤウニ技術的ニモ財政的ニモ豫想ヲ致シテ居リマス

○沖島委員 最近日本發送電會社ガ二箇所

ノ大變廣イ地域ノ炭鑛ヲ買収シテ、ソレハ珍内ノズツト奥、其ノ他珍内方面デハ山下汽船トカ、最近多數ノ炭鑛會社ガ事業ニ著手シテ居リ、此ノ珍内方面ノ石炭ヲドウ云フ風ニシテ内地ニ移出スルカ、ソレカラ泊居方面ニ付テモ相當事業ニ著手サレテ居ル東海岸ノ新聞方面ニモ日鐵ガ露頭六十尺モアルヤウナ炭鑛ヲ買収シテ、事業ニ著手シテ居ル、是モドウ云フ方法デ内地ニ移出サレカ、唯夏ニ沿岸デ移出ノ出來ルモノダケ移出ヲシテ、冬ハ其ノ儘ニシテ置クト云フ程度ノモノデアラウカドウカ、是等ノ石炭ヲ移出ニ付テ何カ其ノ接近シテ海岸ノ施設ニ付テ御考ガゴザイマセウカ

○樺居政府委員 珍内方面ハ是亦惠須取ニ次ギマシテ炭田ノ開發ノ盛ニ行ハレテ居リマス地方デアリマスルガ、大部分ハ内地ヘ移出サレルモノデアリマス、採掘量ハ逐年増加致シマスノデ、之ニ應ズル積出シノ設備ヲ整ヘナケレバナラスト考ヘテ居リマシガ、アスコニ新シク相當規模ノ港灣ヲ修築スルト云フコトハ、色々ノ意味ニ於キマシテ困難ガ伴ヒマスノデ、取敢ヘズ現在利用致シテ居リマス珍内川口ニ付テ適切ナル或ル種ノ設備ヲ致シタラドウカ、是ハモウ少シ技術的ニ檢討致シマセスト——直グ机上ノ立案ハ出來マスケレドモ、實地ニ即シテ手際ノ宜イ計畫ハ立チ兼ねマスノデ、本年中心ニ適當ナ方法デ之ヲ調査致シマシテ、業者ノ協力モ求メマシテ、此ノ方面ノ搬出ニ付テ、差シタル不便ノナイヤウニ具體的ニ立案ヲ進メテ見タイト考ヘテ居リマス、泊岸ノ日鐵ノ炭鑛ハ十五年ハ十萬噸バカリノ出炭デアリマシテ、是モ逐年増産ヲ致スコトニナツテ居リマシ、

殊ニ露天掘デアリマスノデ増産ハ容易デアリマス、是モ日鐵ノ當事者ガ最近積出設備ヲ或ル專門家ニ委囑致シマシテ、計畫致シテ居リマス、是ハ極メテ簡易ナ方法デ沖合ノ方ニ棧橋ヲ架設致シマシテ、之ニ本船ヲ繋留シテ極メテ簡易ナ、而モ效果のナ方法デ積込スルト云フコトニ大體今決定致シテ居リマス、相當ノ工費ヲ要シマスルガ、左様ニ承知致シテ居リマス

○沖島委員 拓務大臣ガオ見エニナリマシタカラ御尋致シマス、是ハ既ニ先程政府委員カラ一應御答辯ヲ願ヒマシタガ、尙ホ大臣ノ御所見ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス、樺太ノ封鎖炭田ノ開發ノコトデゴザイマスガ、是ハ昨年ノ七十四議會デ法律第二十三號ノ改正法律案ノ審議ノ際ニ私バカリデハナイ、樺太ノ封鎖炭田ノ開發ニ付テ各委員ニ、政府ハ現下ノ國情ニ鑑ミ、急速ニ其ノ計畫ヲ立テナケレバナラスト云フコトヲ主張致シマシタ、拓務大臣ハ現下ノ時局ニ對シテ朝鮮ノ米、地下埋藏物ノ開發、臺灣ノ米、ソレカラ樺太ノ「バルブ」、石炭、南洋ノ「ボーキサイド」、ソレ等ニ重點ヲ置イテ國策ニ對應スルコトヲ考ヘルト云フ風ナ御説明ガアリマシタガ、私共ハ此ノ石炭ノ問題デハ昨年から今日アルヲ豫想シマシテ、特ニ委員會ニ八田拓務大臣ノ御出席ヲ願ヒマシテ、十分ニ註文シマシテ、大臣モ必ズソレハ實現スルト云フ御答辯ガアリマシタガ、其ノ後一向計畫ガ立タナイ、先程承ツテ見ルト、各方面ト今折衝シテ折角考慮中デアルト言フ、此ノ頃ノ石炭ノ急迫極メテ深刻ナ國情ニ照シテ、餘リニモ拓務省ノ態度ガ悠長千萬デアルトコトヲ遺憾ニ思フ、大臣ハ此ノ頃御入閣ニナツタバカリデアリマ

スカラ、今ノ大臣ニ私ハ怠慢ヲ責メル次第デハナイノデアリマスガ、拓務省トシテ、モウ少シ國務ニ對シテ緊張シタ考ヲ持タレル必要ハナイカト云フ風ニ考ヘマシテ、國策トシテ特ニ樺太廳ニ臨時石炭増産計畫トカ云フヤウナモノデモ拵ヘテ、樺太長官ダケニ任シテ置カナイデ、資材ノ供給デモ、勞力ノ問題デモ中央カラ拓務省ガ之ヲ支援シテ、日露戰爭ノ結果立派ニ日本ノ領土ニナツテ、其處ニハ豐富ナ資源ガ澤山アル、其ノ樺太ノ資源ヲ十分ニ開發サセルト云フコトニ付テ、特ニ大臣ガ一大決心ヲ持ツテ之ヲヤラセルヤウニシテ戴キタイト云フコトヲ希望シテ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテ一ツ大臣ノ御所見ヲ伺ツテ置キタイ

○小磯國務大臣 現下ニ於ケル内外地石炭事情ニ鑑ミテ、最モ増産ヲ期待セラレル所ハ御話ノ如ク樺太ト思ヒマス、樺太ニ於ケル石炭ノ増産ニ關シマシテハ、各種ノ機會ニ於テ申述ベマシタカラ既ニ御承知デモ實リ相當ノ努力ヲ傾倒シテ居ルコトハ其ノ計畫數字ニ依ツテモ明瞭デハナイカト思ヒマスガ、今更ニ多クノ増産ヲ企圖スベク之ニ補助金、助成金等ヲ加ヘテ、目的ヲ達成シテ行カウト云フコトニ付キマシテハ、或ハ先ニ事務當局カラ御説明ガアツタカモ知レマセヌガ、關係各省ト折角協議ヲ進メテ居リマス、其ノ實現ニ向ツテ只今御話ノ如ク私モ十分ノ努力ヲ傾倒シテ見タイト思ヒマス、封鎖炭田ニ付キマシテハ、是亦御說ノ如ク既ニ開發遲レタリト云フ譏モ尤モデハナイカト思ヒマス、殊ニ此ノ非常時ニ直面致シマシテ、一刻モ速ニ此ノ開發ノ必要ヲ自覺致シマシテ、現在事務當局ニ計畫ヲ立案サセツツアリマス、最モ早く出炭セシメ得ル

方法ニ於テ邁進シヨウト云フ著想ノ下ニ立案中ナ管デアリマス、是等目的達成ノ爲ニ、何等カ特殊ノ機關ヲ設定シテハドウカト云フ御說デゴザイマスガ、拓務大臣ト致シマシテハ、現在機構ヲ精神的ニ、物的ニ、更ニ強化スルコトニ依リ、十分ニ其ノ目的ヲ達成シ得ルト只今ノ所デハ考ヘテ居リマス、即チ特殊ノ機關ヲ茲ニ設ケテ、其ノ目的ヲ達成セネバナラチト云フ風ニ只今ノ所考ヘテハ居リマセヌ、左様御諒承願ヒタイト思ヒマス

○沖島委員 吾々ガ強ク主張シテ、既ニ一年ヲ經過シテ、尙ホ具體案ガ拓務省ニ決定シナイト云フコト、遺憾デアリマスガ、只今拓務大臣ノ御答辯ニ依リマス、非常ナ決心デ、急イデ其ノ成案ヲ求メルコトニ努力シテ居ラレト云フコトデアリマス、大臣ハ軍部ノ御出身デアリマス、ドウモ今マデノ行政官廳デハ餘リニ詮議ノ爲ニ時日ヲ遷延スル、吾々民間ノ者カラ見ルト、如何ニモ悠長千萬ニ考ヘルノデアリマスガ、是ハ一ツ急迫シタ國情ニ鑑ミマシテ、速戰即決主義デ早ク實現シテ戴キタイト云フコトヲ御願致シテ置キマス

次ニ大臣御出席デアリマスカラ、樺太ノ重要産業デアリマス森林政策ニ關シテ御尋シテ見タイト思ヒマス、樺太ノ森林資源ハ、御承知カモ知レマセヌケレドモ、往年内地方面ノ利權運動ノ目標ニナリマシテ、所謂樺太ノ森林ニ樺太ノ有力ナ官民多數ガ關係ヲシテ、樺太ハ一大伏魔殿ノ如ク見ラレタ時代ガアリマシタ、左様ナコトデ國家ノ大切ナ森林資源ガ非常ニ荒廢ヲ致シマシタコトハ事實デアリマス、ソコデ齋藤内閣ノ時代ニ樺太林政ノ一大改革ヲシナケレバナラ

ナイト齋藤總理大臣が御決心ニナリマシテ、
歸任途中ノ岸本樺太長官ヲ罷免シテ今村
長官ヲ新シク任命シタ、是ハ極メテ非人道
的デアツテ、ヤリ方ガ少シ酷イト云フ隨分
非難モアリマシタ、而シテ議會ニ於テ色々
質問ガアリマシタガ、總理大臣モ永井拓務
大臣モ已ムニ已マレナイ、林政ノ一大改革
ヲシナケレバナラナイ、其ノ林政ノ改革ノ
爲ニ特ニ練達堪能ノ人ヲ人選シテ長官ニシ
タノダト云フ辯明ヲシテ居ラレタ、ソコデ
今村長官ハ任ニ赴クヤ銳意林政ノ改革ニ努
メ、昭和七年カラ色々基本調査ヲシテ林政
ノ改革ヲ致シマシタ、ソレガ爲ニ大變林政
ガ整頓致シマシテ今ハ一本ノ木デモ利權扱
ハ出來ナイ、事實シテ居ナイ、大變其ノ點
ハ明期ニナツテ參リマシタ、ソコデ私ハ御
尋ヲシテ見タイノデアリマスガ、是ハ事務
當局デ宜シウゴザイマスガ、現在ノ程度デ
森林ノ總面積、ソレカラ林木ノ蓄積——ソ
レハ二三重要ナ種目デ宜シウゴザイマスガ
ラソレヲ御示シ願ヒタイ、現在ノ蓄積量ヲ
保持スル爲ノ適正ナル標準年伐量ハドウ云
フ數字ニナルカ、之ヲ一ツ御尋シテ見タイ
ト思ヒマス、是ハ政府委員カラデ結構デア
リマス

○棟居政府委員 細カイ數字ニナリマスノ
デ、私カラ御答致シマス、樺太ノ森林面積
ハ要存置林ト不要存置林ト二種類ニナリマ
ス、要存置林ハ是ハ飽クマデ國有トシテ保
有スベキモノデアリ、不要存置林ハ市町村
或ハ個人等ニ逐次處分ヲ致ス豫定ノ地域デ
アリマス、之ヲ含メマシテ大體三百萬町歩
ニナリマス、中、要存置林二百五十萬町歩、
不要存置林五十萬町歩デアリマス、兩方
ヲ合セマシテ蓄積量ハ——主ナ樹種ヲ申上
ゲマスレバ、蝦夷松樺松デアリマスガ、是
ハ六億五千四百萬石ニナツテ居リマス、次
ニグイ松ハ所謂落葉松デアリマス、是ガ五
千三百萬石、雜木ニ屬シマスル樺共ノ他ノ
樹種ガ一億二千二百萬石、合計致シマシテ八
億二千九百萬石内外ダト考ヘテ居リマス、
一寸合計シタ數字ヲ持ツテ居リマセヌガ大
概左様ダト考ヘテ居リマス、年伐量ハ非常
ニ難カシイ計算デアリマシテ、只今ノヤウ
ニ毎年過伐ヲシテ居リマス標準年伐量ニ
ズツト食込ンデ居リマス、標準年伐量ガ毎
年毎年減ツテ來ル計算ニナリマス、逆ニ林
力ヲ増進シテ參リマスル標準年伐量ガ少
シ上向キニナツテ參ルノデアリマスガ、只
今ノヤウニ何ト申シマスカ、鮎配當ノヤウ
ニ元ヲ食ツテ居ルノデアリマスカラ、標準
年伐量——適正ナ經營ノ下ニ毎年伐採シ得
ル數量ト云フモノハ段々實ハ減ツテ居ル譯
デアリマス、隨テソレダケ過伐ガ一層加ハ
ツテ來ルト云フコトニナリマスノデ、其ノ
意味ニ於キマシテ年伐量ノ計算ト云フモノ
ハ非常ニ困難デアリマス、是モ只今申上ゲマ
シタヤウニ、要存置林ト不要存置林ト、更
ニ主ナル樹種毎ニ之ヲ區分致ス必要ガアル
ノデアリマスルガ、餘リ細カイコトニナリ
マスカラ大體ノコトヲ申上ゲマスレバ、要
存置林カラノ標準年伐量ト云フモノハ昭和
十五年度デハ八百八十萬石ト云フコトニナ
テ居リマス、不要存置林ノ標準年伐量ハ二
百六十五萬石、其ノ他ニ未利用林カラ百六
十五萬石ヲ供出スルコトガ出來マス、尙ホ造林
ノ除間伐材ガ五十萬石アリマス、合計致シ
マシテ千三百六十萬石ト相成リマス、是ガ
樺太ノ合理的ナ森林經營ノ下ニ毎年供出シ
得ル適正ナル數量ト云フコトニナツテ居ル

ノデアリマスガ、此ノ千三百六十萬石ガ、
今申シマシタヤウニ標準年伐量ガ食込ンデ
來テ居リマスノデ、段々減ツテ昭和二十二
年ノ如キハ千三百三十萬石ガ供出可能數量デ
アリマス、之ニ對シマシテ或ハ御尋ノ減石
ガアルカモ知レマセヌガ、需要量ノ方ハ益々
増シテ來ル、唯王子ノ島外移出材ガ十八年
度デ滿期ニナリマスノデ、百四十萬石ト云
フモノガ「ドロップ」致シマスルナラバ稍緩
和サレマス、ソレニ致シマシテモ四五百萬石
ノ過伐ヲ繼續致シマスシ、此ノ外ニ尙ホ合
計致シマシテ四百萬石内外ノ燒損木、枯損
木ト云フヤウナモノヲ處分致シテ居リマス
ルガ、是モ段々ナクナリマスノデヤハリ是
等ノ三百乃至四百萬石ノ現在特殊ノ林木ノ
處分デ補充致シテ居リマスモノモ、立派ナ
立木ヲ以テ供給シテヤラナケレバナラヌト
云フコトニナリマスノデ、此ノ過伐量ト云
フモノハ優ニ八百萬石乃至千萬石ニナルノ
デハナイカト云フ風ニ豫想致シテ居リマス
ノデ、森林經營上ハ依然トシテ大キナ問
題トシテ殘ツテ居リマス

○中野委員長 沖島君、一寸御相談デスガ、
大臣ヘノ御質疑ガアリマスレバ其ノ方カラ
片付ケテ戴キマス

○沖島委員 我ハ數字的ニ樺太ノ森林ノ將
來ガドウ云フ風ニナルカト云フコトヲ確メ
テ、ソレニ基イテ大臣ニ御尋シタイト思ウ
テ居リマシタガ、今ノ政府委員ノ御答辯ノ
程度デ大臣ニ御尋ヲシテモ宜クハナイカト
考ヘマスカラ、私ノ調査ヲシテ居ル年伐量
ハ約一千三百萬石デアリマス所ガ只今長官
ノ御説明ニ依ルト、不用存置林ト云フモノ
ガアリマスガ、是ハ昭和二十二年デナクナ
ツテシマフ、サウスルト適正ナ年伐量ト云

フモノハ一千萬石ニナリマス、ソレニ對
スル現在ノ需要量ハドウカ、是ハ大臣ニ對
スル質問ノ御答辯ヲ速進スル爲ニ私カラ數
字ヲ申上ゲテ、御尋ネヲ致シマスカラ間違
ヒガアツタラ政府委員ノ御訂正ヲ願ヒマス、
需要量ハ王子製紙島内分ガ七百八十萬石、
王子製紙ノ島外分ガ四百四十萬石、人絹會社ガ
百五十萬石、計一千二百萬石、ソレカラ島
内ノ用材ガ百五十萬石、木工所其ノ他島内
ノ鑛業用材、坑木是ガ三百五十萬石、個人
年期ハ十五年度デ終ルノデアリマスガ、百
五十萬石、合計一千八百萬石、其ノ中今長
官ノ御説明デハ王子製紙ノ島外輸出ト云フ
モノガ百四十萬石、是ハ總テナクナル、ソ
レカラ個人年期モ昭和十五年デナクナル、
是等ヲ差引キマシテモ、約一千五百萬石位
ノ需要量デアリマス、ソレカラ又茲ニ一ツ
ノ疑問ガアル、先程石炭ノ増産ノ御説明ガ
アリマシタガ、近キ將來ニ於テ一千万噸ノ
石炭ガ必要デアル、是ニハ是非最モ先ニ必
要ノ資材ヲ供給シナケレバ石炭ハ出テ來ナ
イ、一千万噸以上ノ石炭ヲ出ス場合ハ三
百五十萬石位デハ足リナイ、或ハ五百萬石
以上要ルノデハナイカト云フ風ニ私ハ考ヘ
ル、サウスルトドウシテモ大雜把ニ計算シ
テモ五六百萬石以上ノ過伐ヲ現在ヤリ、又
將來モヤラザルヲ得ナイト云フコトニナル
サウシテ今後此ノ計算カラ行クト、六七年
後ニナルト、島内ニ「パルプ」ヲ製造シテ居ル
會社、或ハ人絹ヲ製造シテ居ル會社「ステ
ーブル・ファイバー」モアルカモ知レナイ、
九ツノ工場ガアリマスガ、其ノ中ノ數工場
ハ閉鎖シナケレバナラス、山ヲ禿山ニスルコ
トハ覺悟シテ、此ノ儘盲ラ減法ニ伐採ヤル、
サウスレバ石炭ノ増産「パルプ」ノ生産ハ當

分出來ルカ知レヌガ、總テドツチモ資材ノ激減ノ爲メ出來ナクナツテシマウ、デスカラ林力ヲ維持シヨウトスレバ、工場ヲ閉鎖減少シ又ハ石炭増産ヲ手控ヘナケレバナラス、是デドウナルカ此ノ點ニ付テ無論當局ニ於キマシテハ相當ナ考ガナケレバナラスノデアリマスガ、林力ノ維持ハ必要デアリマスクレドモ、先般秘密會デ企業院總裁カラ御發表ニナリマシタ有ユル重要物資ノ大部分ハ外國カラ輸入シナケレバナラスガ「バル」ダケハホンノ僅カ輸入スレバ足りルト云フノハ、要スルニ樺太カラ多量ノ「バル」資材ヲ供給シ得ルノデアルカラ、吾モ非常ニ意ヲ強ウシタ、石炭ノ増産ニ付デモ先程來種々心強イオ話モアツタノデアリマシガ、資材ノ點カラ云ヘバ現實ニ地元ノ用材ノ點カラ制限シナケレバナラス、サウシテ工場ヲ閉鎖スルトカ、或ハ折角發展シタ石炭ノ事業ヲ中止スルト云フヤウナコトニナルト、樺太ニ居住シテ居ル住民ノ經濟力ニ至大ナ影響ヲ及ボシマシテ、其ノ生活ノ根據ヲ失ハナケレバナラス、是等ニ付テハドウ云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマスガ、是ハ獨リ樺太ノ拓殖ノ爲ノミデハナイ、石炭、「バル」ハ國家ノ重要産業ノ爲ニ極メテ重大ナ問題ト考ヘマスカラ、此ノ點ハ數字のニハ政府委員カラ、大方針ニ付テハ大臣カラ御意見ヲ伺ヒタイ

○小磯國務大臣 樺太ニ於ケル産業ノ大宗ハ林木デゴザイマス、サウ云フヤウナ見地ニ於テ林力ノ保存ト云フヤウナ點ニ關シ、將來ヲ憂慮セラルヤウナ沖島君ノ御說ヲ承ルコトハ私ノ共鳴ヲ以テ承ル所デアリマス、私モ沖島君ト同様ニ樺太ニ於ケル實トモ稱スベキ森林ガ、今日ニ至ルマデ相當濫

伐セラレテアツタト云フコトニ對シテハ非常ナ遺憾ヲ感ジテ居ル一人デアリマス、併シ其ノ伐採ノ今日ニ於ケル實際情勢ヲ見マスルト、先刻カラ段々數字ニ關スル御問答モアツタヤウデアリマスガ、私ノ概算的數字トシテ記憶シテ居リマスル所ハ、數字ノ基礎ハ少シ違フカ知レマセヌガ、大體千二三百万石ヲ伐ツテ居ルノヲ適當ト思ハレマス、之ニ對シ現在千七百石内外ハ優ニ伐ツテ居ラレマスノデ、隨テ其ノ差四五百万石ト云フモノガ過伐ニナツテ居ル、此ノ趨勢ヲ以テ將來ニ推移スルナラバ、先刻カラ申上ゲテ居リマス林力ノ保存ト云フコトガ、根本的ニ破壞サレルト云フ點ニ付テ憂慮ヲ持ツテ居ツタ一人ナノデアリマスケレドモ、現在ノ情勢ハ何ト云ツテモ非常時デ、殊ニ一面ニ於テ相當ノ國力ヲ賭シ、戰ヲヤツテ居ル現狀デアリマスノデ、斯ウ云フヤウナ方面ニ對シ必要デアルトスレバ、資材其ノモノハ眞ニ傾倒シテ使ツテ行カナケレバナラスノデアリマスノデ、今ノ所ハ眼ヲ限ツテデモ増産ノ爲過伐ニ我慢シロ、四五百万石ヨリ以上ノ過伐ヲ要求セラレテモ、今ハ仕方ガナイカラ我慢シロ、但シ一旦眞ニ必要ナル需要ガ茲ニ少クナルト云フコトニナツタナラバ、極力一ツ林力ノ培養ト云フコトニ向ツテ反轉ヲシテ邁進ヲシテ行キタイト云フヤウナ考ヲ持ツテ居ルノガ私ノ今日ノ心境デアリマス、唯併シ此ノコトハ數字のニ言ヒマシテ相當困難性ヲ伴フカモ知レマセヌガ、何レニシテモ今申上ゲタヤウナ趣旨デ、將來ニ善處シテ參リタイト斯ウ考ヘテ居リマス

○沖島委員 樺太ノ林政ニ對シテ只今ノ大ニ御考ハ私モ大體同感デアリマス、非常時デスカラ年々五百万石バカリ過伐ヲ致シテ居ル、是ハ第一ニ必要ナ紙ノ原料デ何トシテモ出サナケレバナラス、之ヲ制限スレバ外國ハ正貨ヲ拂ツテ買ツテ來ナケレバナラス、ソレカラ石炭ノ増産ノ爲ニハ兎ニ角鑛業用材ヲ供給シナケレバナラス、現在ノ狀態ハ目ヲ瞑ツテ我慢シナケレバナラス、一度時機ガ來タナラバ、今日カラ備ヘテ植林計畫ヲスル、林力保存ノ爲ニ全力ヲ注グト云フノ外ナイ、是ハ其ノ通り全ク同感デアリマス、然ルニ内地ニ於テモ非常ニ森林資材ガ缺乏致シマシテ、其ノ結果トシテ樺太ニ工場ヲ有シナイ内地ノ製紙工場等ガ、最近樺太ニ向ツテ其ノ資材ヲ強ク要求サレル、是ハ往年ノ利權取ト違ヒマシテ、事業家ガ實際困ツテ要求スルノデアリマスカラ、其ノ事情ニハ私共多大ノ同情ヲ持ツノデアリマスクレドモ、樺太ノ地元デ必要ナ「バル」工場用材、鑛業用資材或ハ居住民ノ生活ノ爲ニ必要ナ木材デスラ五百万石過伐シテ居ル、ソレヲ制限スルトカ、或ハ現在以上過伐ヲシテ迄モ内地ノ需要ニ應ズルノ餘地ハナイヤウニ考ヘル、然ルニ最近相當サウ云フ運動ガ猛烈デ、油斷ラスレバ又往年ノヤウナ忌ハシイ問題デモ起キハセヌカ、併シ今日ハ林政ノ大方針ガ確立シマシテ、サウ云フモノハ一切寄セ付ケナイト云フシツカリシタモノガアリマスクレドモ、其ノシツカリサガ私ノ經驗カラスレバ、農林省ヤ北海道カラ見ルトマダ、樺太ノ方ガ餘地ガアル、農林省ヤ北海道ノ方ハ齒ガ立タヌ、小サチ木ノ枝一本デモ林木處分ハ極メテ嚴重デアル、樺太ノ方ハ何トカ運動スレバ方法ガ付キサウダト云フノデ相當運動ガアルシイ、是ハ直接軍需品トシテ戰爭ノ爲ニ必要ナモノ

ハ別デアリマスガ、當局ハソレ以外ノサウ云フ要求ニ對シテドウ云フ態度ヲ御執リニナルカ承ツテ置キタイト思ヒマス

○棟居政府委員 十五年度ヲ以チマシテ島外移出ノ爲ノ個人年解消致シマス、隨テ島外ハ移出致シマスルモノハ王子關係ノ百四十万石ダケニナルト云フコトハ、先程御述ニナリマシタ通りデアリマスガ、左様ナ狀態ノ下ニ樺太ノ森林ハ先ヅ全力ヲ上ゲテ資源ノ確保ニ邁進致シマスルト同時ニ、樺太島内ノ所要量ノ確保ニ事缺カシメナイト云フコトニ主力ヲ置ク、此ノ二ツノ狙所ヲ以チマシテ森林經營ヲ進メテ參リタイト思ツテ居リマス、隨ヒマシテ先程御述ニナリマシタヤウニ特ニ鑛業用材ノ如キハ千萬石ノ増産ノ際ニハ机上の數字ヲ以テ參リマスルナラバ約七百万石要ルノデアリマス、之ヲ稍、内譯ニ申上ゲマスレバ、鑛業用材ノ中デ坑内材即チ坑木デアリマスガ、是ハ石炭一廬ニ對シテ用木ニ斗ヲ供給シ、坑外材即チ建築其ノ他デアリマスガ、是ハ一廬ニ對シテ五斗ヲ供給致ス方針ノ下ニ算定ヲ致シテ居リマス、左様ニ算定致シマス、坑内外材合セテ一千万石生産ヲ抑ヘルニハ七百万石ノ木材ヲ要スルコトニナリマスノデ、只今三百五十万石ヲ供給シテ居リマスガ、是ガ倍ニナリマス、其ノ他地元ノ用材モ殖エテ參リマスノデ、樺太島内ノ各種ノ産業及ビ生活上必要ナモノヲ確保スルダケデ大ナル苦心ヲ要シマス、殊ニ昭和二十三年度カラハ不要存置林ノ年伐量ガ姿ヲ消シマスノデ、千五十万石ノ標準年伐量ニナリマスカラ、非常ナ開キヲ生ジマス、隨テ林力ノ培養ト云フコトハ單ナル才題目デアリマセヌデ、現地當局トシテハ萬策ヲ講ジナケ

レバナラス、斯様ニ考ヘテ居リマス、是ハ樺太ノ産業ノ大宗デアリマスノミナラス、樺太拓殖ノ根源ヲナスモノデアリマシテ、之ニ依ツテ住民モ漸ク生活ヲ安定シ得ルノデアリマス、隨テ森林資源ノ確保培養ト云フコトハ樺太ノ行政當局トシテハ固ヨリ、居住者四十万ノ最大ノ關心事デアリマス、左様ナ意味ニ於キマシテ從前ノ如ク樺太ノ林力ニ寄食スル、一時のナ搾取ヲ以テ足レリトスルヤウナ斯様ナ情性的考ヘ方ハ數年來一擲サレテ居リマス、併シナガラ現在ノヤウナ非常時局ニ於キマシテハ國ノ存亡ニモ關係スルヤウナ問題ニモ觸レテ參ルト思ヒマスノデ、左様ナ際ニハ吾々ハ樺太ノ爲ノ樺太、森林ノ爲ノ森林ト云フ見地カラノミ事ヲ談ズル譯ニ參リマセヌ、故ニ有用ノ途ニ供スル限リハ一應ノ石炭ヲ掘リ、一木ト雖モ之ヲ用フル途ヲ講ジナケレバナラスト云フコトハ實ハ已ムヲ得ザルコト考ヘテ居リマス、併シナガラ是ガ利權ノ用途ニ供セラレ、不純目的ノ爲ニ、所謂運動ガマシイ策謀ガアルト云フコトハ斷乎トシテ吾々ハ排撃シテ居リマス、斯様ナモノハ一步ト雖モ樺太ニ上陸スルコトヲ許サナイ覺悟ヲ持ツテ居リマス、併シナガラ事已ムヲ得ザル用途ニ用フルモノニ付キマシテハ日本國民ノ最高ノ良心ヲ發揮致シマシテ左様ナ要望ニ對シテハ協力致サナケレバナラヌト云フ點、實ハ非常ナ苦心ヲ伴ヒマスガ、考ヘテ居リマス、現ニ左様ナ方向ニ向ツテ具體案ヲ考ヘテ居リマス、玉石混淆ノナイヤウニ此ノ點ハ十分考ヘテ居リマス

○**沖島委員** 樺太ノ森林ハ國家ノ重要資源トシテ飽クマデ之ヲ確保シナケレバナラス、併シナガラ此ノ非常時ニ際シテ必要ナル石炭増産、**「パルプ」**増産ノ爲ニ現在ノ過伐モ已ムヲ得ナイ、又直接戰爭ノ爲ニ必要ダト云フモノモアルカモ知レナイ、ソコデ已ムヲ得ナイト云フ限度ハ、島内デ内地ノ産業界ニ齎スベキ石炭ヲ増産スル、**「パルプ」**ノ生産ヲ増加スル、島内ノ人ノ生活ニ直接關係スル、此ノ時局ニ際シテ已ムヲ得ザル範圍トハ斯様ナモノデアアル、サウ云フ風ニ解釋シテ宜シイノデアリマス

○**樺居政府委員** 島内ノ需要ニ付キマシテハ御説ノ通りデアリマス、島外ヘ非常手段トシテ移出スルコトヲ如何ニシテモ避ケ得ナイモノハ、ヤハリ御説ノ通りデ、軍ノ戰爭目的の遂行ニ關係致シマス範圍デアリマス

○**沖島委員** 私ハ已ムヲ得ザル範圍ニ付テハ解釋ニ付テ伺ヒマシタガ、其ノ見地カラシマス、王子製紙ノ島外移出ナント云フモノハ、是ハ年限ガ切レタラ當然供給シナイ、サウスルノデナケレバ、到底年次計畫モ何モ出來ナイ、今マデノ年次計畫モ是ハ期限ガ切レタラサウ云フモノハ繼續シナイト云フコトニ、當然ナルト思ヒマスガ、サウ云フ御決心デアリマス

○**樺居政府委員** 個人年々ハ昭和十五年度百十一万石ヲ以テ解消スルコトハ先程申上ガマシタガ、又王子ノ島外移出百四十万石ハ昭和十八年度ヲ以テ打ちリニナルコトハ既定方針通りデアリマシテ、其ノ後ノ所謂善後處置ニ付キマシテハ、マダ斷定的ナコトヲ申上ガ兼ネマスルガ、ヤハリ樺太廳ト致シマシテハ既定方針通り、是ハ内地ノ農林省北海道廳等デ適宜ニ對策ヲ講ゼラレルモノデアアル、斯様ニ想定ヲ致シテ居リマス

○**沖島委員** 尙ホ序ニ私ハ樺太ノ森林ガ、如何ニ其ノ蓄積量ニ對シテ無理ナ伐採ヲサ

レテ居ルカト云フコトヲ數字的ニ檢討スル爲ニ申上ゲマス、私ノ調査デハ内地ノ國有林ハ總蓄積量ニ對シテ一・三五%、北海道ハ〇・六九%、ソレニ對シテ樺太ハ現在二・一〇%ノ過伐ヲ致シテ居ル、北海道内地ニ對シテ、斯ウ云フ風ニ私ハ調査シテ居リマスガ、當局ノ御調査ハドウデスカ

○**樺居政府委員** 大體私モ左様ニ記憶致シテ居リマスガ、一寸只今材料ヲ持合シテ居リマセヌノデ、後程調べマシテ御答辯致シマス

○**沖島委員** モウ一ツデ濟ミマスカラ御許ヲ願ヒタイ、是ハ大臣ニ御尋シタ方ガ宜カラ、政務次官ニ代ツテ御答辯ヲ願ヒマス、先程來私ハ相當長時間ヲ與ヘテ戴キマシテ、樺太ノ石炭トカ森林ノ問題ニ付テ當局ノ御答辯ヲ願ヒマシタガ、御承知ノ通り樺太廳ノ財政ハ最近相當ニ餘裕ガアリマスルガ、其ノ歳入ノ大部分ハ直接間接森林收入デアアルコトハ、何ト云ツテモ動カスベカラザル事實デアリマス、サウシテ一度樺太ニ足ヲ入レテ御覽ニナルト分リマスガ、都會ト云フ都會ハ皆製紙工場ノ所在地デアリマス、左様ニ樺太ノ森林ハ樺太ノ開發拓殖ニ付テ重要ナル使命ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、一面石炭ハ是カラ大ニ増産シヨウト云フノデアリマスルガ、此ノ石炭カラ得ル樺太デノ收入ハ僅ニ坑區稅トカ云フ位ノモノデ、數字的ニハ極ク少額ナモノデアリマシテ、森林ノ如ク拂下料、賣拂料ト云フヤウナ大ナル收入ハナイ、併シ御承知ノ通り樺太ニハ産業ノ種類ガ乏シイ、石炭ヲ國家ノ爲ニ増産シナケレバナラスコトハ固ヨリデアリマスガ、之ヲ掘出セバソレダケ減ル、大體

森林ハ後カラ植林モ出來マスガ、ソレデモ一度伐ツタラバ、五十年、百年稚樹ガ成長スルマデハ待タナケレバナラス、大體石炭ノ採掘デモ森林ノ伐採デモ皆掠奪的デアアル、ソコデ森林ト同様ニト云フコトハ期待ガ出來マセヌガ、石炭ノ開發ニ基イテ、樺太ニ他ノ永久の産業ヲ植付ケル、ソレハ第一ニ農業デス、樺太ノ農業ナド何ニナルカト云フ見方モアリマスガ、樺太デナケレバ出來ナイ寒帯地帯ノ特殊農産物ガ出來ル、是ハ樺太ノ地質氣候ニ適シタ一ツノ永久の産業トシテ、今後政府ハ相當ニ計畫スル所ガナケレバナラス、石炭ヲ採掘スルト同時ニ、之ニ依ツテ樺太ノ將來ニ永久性ヲ持タセル所ノ産業ノ計畫ヲ立テルト云フ風ナコトヲ考ヘナケレバナラナイ、ソコデ樺居長官ガ其ノ見地カラ樺太拓殖株式會社ト云フモノヲ御計畫ニナツタト云フコトデアリマスガ、是ハ今年ノ議會ニハ間ニ合ハヌノデアリマセウガ、私ハ必ズシモ石炭ト樺太拓殖株式會社トハ絕對的ニ結付カナケレバナラスノダトモ考ヘナイ、併シ何レニシテモ石炭ヲ掘ルト同時ニ樺太ノ永久の産業ニ付テ考ヘル、是ハドウモ樺太ニ長官トシテ其ノ任ニ在ル以上、石炭ヲ掘リ放シデ内地ニ石炭ヲ送出セバソレデ宜イト云フコトデナク、ソコニ樺太永遠ノ産業ニ關シ其ノ計畫ヲ立テルト云フコトハ、樺太デ長官トシテハ其ノ職責上極メテ當然ダト考ヘマスガ、拓務省ノ方トシテハドウ云フ風ニ之ヲ御取扱ニナツテ居リマスガ、之ヲ一ツ承リタイ

○**松岡政府委員** 私ハ任ニ就カザル以前、外政ノコトハ少シク知ル所ガアルノデスガ、更ニ任ニ就イテ只今ノヤウナ御説ガ頗ル適切デハナイカト思フノデアリマス、先

程沖島君モ拓務省ハ廢止論サヘ起ツタヂヤ
ナイカ、モウ少シシツカリヤラナケレバナ
ラスト云フ御言葉ガアリマシタガ、全ク何
ノ原因ダカ分リマセヌガ、外政ノ各方面ニ
關スル關心ト云フモノガ、少シク薄カツタ
ヂヤナイカト云フコトダケハ、爭フベカラ
ザルコトデアツテ、特ニ外地ニ若干關心ヲ
持ツタ者カラ言ヒマスレバ遺憾ヲ感ゼザル
ヲ得ナイ、幸ニモ今次事變發生以來、特ニ
昨年來或ハ石炭ト云フヤウナ諸問題ガ起
リマスルニ付テ、外地ノ重要性ガ最モ認識
セラルル時機ニ到達シタノデアリマス、特
ニ樺太ニ於テハサウデアラウト思ヒマス、
沖島君ノ如ク多年樺太ノ開發ニ非常ナ熱力
ヲ以テ御貢獻ナサレタ方カラ考ヘマスレバ、
此ノ時コソト云フ御考ハ當然ノコトト思ヒ
マス、先程樺太長官ヨリ申上ゲマシタ通
リ、惠須取方面ノ鐵道港灣ノ開發ト云フヤ
ウナ樺太ノ種々ノ問題ニ付テ、何ト申シマ
スカ、將來ニ及ボシマスル點ヲ根本的ニシ
ツカリト考ヘテ參リタイ、後藤民政長官時
代ニ臺灣或ハ南滿洲ニ付テアノヤウナ計畫
ヲ立テタガ、ソレニ比ベテ洵ニ小サイデハ
ナイカト云フヤウナコトノナイヤウニ、殊
ニ北方國境方面ノ種々ナル環境ニ照シマシ
テモ、特ニ之ヲ痛感スル次第デアリマス、
御意見ノアル所ニ付テハ全然御同感ヲ表ス
ル次第デアリマス、熱力ヲ以テ是等ニ對シ
將來ノ機關ヲ作ラネバナラスト云フヤウニ
考ヘテ居ル次第デアリマス

○沖島委員 ソレカラ最後ニ、段々ト石炭
ノ増産其ノ他産業ノ發展等ニ付キマシテ感
ズルノハ人間ノ問題デアリマス、ソコデ樺
太ニ高等工業學校程度ノモノガ一ツ位ナイ
ト、ドウシテモ人の方面カラシマシテ將來
ノ發展ヲ期セラレナイノデアリマス、中等
程度ノ工業學校ハ出來マシタガ、之ヲ高等
專門學校程度ニ御進メニナル意向ハナイデ
セウカ、長官ニ一寸御伺致シマス

○樺居政府委員 工業學校ハ來ル四月カラ
開校致シマスノデ、マダ創設尙々ノ間デア
リマス、是ガ只今ノ所五年間ニ養成ヲ致ス
ト云フコトニナツテ居リマス、隨ヒマシテ
高等工業學校ノ新設ハ、是等ノ生徒ガ卒業
致シマスル頃ニ適當ニ考慮致シテ宜イノデ
ハナイダラウカ、今何年カラ高等工業學校
ヲ新設スルト云フコトヲ具體的ニ申上ゲル
コトハ、時期稍、尙早デハナイカト考ヘテ居
リマスガ、併シ農林系統ト工業系統トノ專
門學校ヲ設立シテ貫ヒタイト云フコトハ、
島民ノ大半ガ要望致シテ居ル所デアリマシ
テ、樺太廳ト致シマシテモ是等ノコトニ付
テハ適當ナル取計ヒヲ致ス時期ガ來ルノデ
ハナイカ、左様ニ考ヘテ居リマスガ、只今
何時カラト云フコトハハツキリ申上ゲ兼ネ
マス

○沖島委員 大變長イ間御答辯願ヒマシテ
有難ウゴザイマシタ、最後ニ拓務省ノ政府
委員ガ三名見エテ居リマスガ、甚ダ申上ゲ
兼ネルコトデアリマスガ、ドウモ拓務省ハ
以前カラ必ズシモ意識シテヤツテ居ルノデ
ハナイト思ヒマスガ、朝鮮臺灣ニハ齒ガ立
タヌノデ、兎角樺太ヤ南洋ニ向ツテ小姑根
性デ意地ガ惡イ、アナタ方ノ顔ヲ見テ居ル
トサウ云フオ方デハナイヤウニ思ヒマスガ、
無論意識シテヤツテ居ルノデハナイ、色々
干涉サレコトハ親切デナケレバ出來ナイ
カラ良イコトデスガ、ドウモ邪魔ヲスルト
カ積極的ニ協力シナイコトニナツテハ困ル
ト思フ、ソシテ馬鹿ナコトハナイ、驚入ツ

タ誤解ダト云フヤウニ仰シヤルカモ知レマ
セヌガ、世間ノ評判ハサウデス、ドウモサ
ウ云フ傾キガアル、世間ニサウ云フ評判ガ
アルトスレバ、或ハサウカト云フ風ニ考ヘ
テ見ル必要ガアルノデハナイカ、將來ハサ
ウ云フコトノナイヤウニ、親切ニヤツテ戴
キタイ、餘計ナコトデスガ御願致シテ置キ
マス

○松岡政府委員 御質問デハナイヤウデア
リマスケレドモ、事極メテ大切ナコトト存
ジマスカラ、一言サセテ戴キマス、只今ノ
御話ハ内地ハ外地ニ對シテドウモ繼子扱ヒ
ニスルノデハナイカト云フヤウニモ感ゼラ
レマス、隨テ外地間ニ於テ臺灣ヤ朝鮮ニハ
拓務省トシテハ斯様ナコトヲシテ居ルガ、
南洋或ハ樺太ニ對シテハ、ドウモ意識的ニ
繼子扱ヒニシテ居ルデヤナイカト云フヤウ
ニ御述ニナリマシタガ、沖島君ハ長ク樺太
ニオ居デニナリマスカラ、或ハサウ云フ點
カラ若干サウ云フ御氣分ニナルカモ知レマ
セヌガ、申上ゲルマデモナク、拓務當局
ハ内外地ヲ通ジテ一視同仁ノ御趣旨ヲ體シ
テ居リマスルノデ、況ンヤ外地間ニ於テ甲乙
ナドノアラウ筈ガナイノデアリマス、斷ジ
テ左様ナコトハアリマセヌ、併シ尙ホ一層
樺太ニ付テハ考ヘテ參リタイノデアリマス、
此ノ段御諒承願ヒマス

○中野委員長 ソレデハ本日ハ之ニテ散會
致シマス、次會ハ公報ヲ以テ御知ラセ致シ
マス

昭和十五年三月六日印刷

昭和十五年三月七日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局